

番号	29 - 11	申請者	神経内科医長 岡崎 敏郎
<p><b>【審査申請課題】</b></p> <p>「Head Up Tilt試験, 心筋シンチグラフィー, 脳血流シンチグラフィーを用いたパーキンソン病における起立性低血圧の検討」</p>			
<p><b>【審査課題の概要】</b></p> <p>Head up Tilt試験(HUT)での血漿ノルアドレナリン値とADH値及びそれらの上昇率, 123I-MIBG心筋シンチグラフィーでの心臓縦隔比(Heart to Mediastinum比:H/M比), 99mTc-ECD脳血流シンチグラフィーでの血流低下部位からPDにおける起立性低血圧の障害部位について後方視的な検討を行う。</p>			
審査結果	承認 ( 平成29年8月1日 )		

番号	29 - 12	申請者	臨床研究部長 前田 寧
<b>【審査申請課題】</b> 健常者における血中CXCL12/SDF-1と骨格筋量に関する研究			
<b>【審査課題の概要】</b> 健常者における血中CXCL12/SDF-1濃度を調べると同時に、骨格筋量を骨格筋MRI検査と骨格筋超音波検査にて定量し、CXCL12/SDF-1と性別/年齢/骨格筋量との関連を調べ、この因子の骨格筋に対する生理的機能を明らかにする。			
審査結果	承認 ( 平成29年8月1日 )		

番号	29 - 13	申請者	副薬剤部長 中村 康彦
<p><b>【審査申請課題】</b></p> <p>病棟薬剤業務での疑義照会による有害事象回避事例件数の推移に関する多施設共同前向き観察研究</p>			
<p><b>【審査課題の概要】</b></p> <p>薬剤師の病棟薬剤業務では、医療安全の向上に寄与する目的で、各施設において種々の取り組みが行われている1)。特に疑義照会は、医薬品のリスクを回避するための重要な手段であり、我々は、以前の研究で単一施設において病棟薬剤業務により疑義照会件数と優良事例(本研究では有害事象回避事例と定義する)(禁忌、副作用、用量超過、重複等)件数が増加することが報告している2, 3)。本研究では多施設共同で現在実施している病棟薬剤業務の情報共有が、疑義照会および有害事象回避事例件数増加につながることを立証する。併せて病棟薬剤業務の実施体制と優良事例件数の関係性についても調査を行う。病棟薬剤業務を実施している多施設間で、病棟薬剤業務で行っている疑義照会に関する情報を共有することで、病棟薬剤業務の質が向上し、患者の薬学的管理と処方提案を的確に実施できる上、有害事象等の危険を回避、医薬品の適正使用の推進を図ることが可能となる。</p> <p>1) 加藤知次、伊藤誠一、秋田隆光、病棟薬剤師常駐によるインシデント回避事例、社会保険医学雑誌43巻2号p55-60 (2005)</p> <p>2) 中川義浩、鶴崎泰史、浦本邦宏、小園亜希、花田聖典、畑田万紀子、山部美千子、水町純一、竹内小百合、病棟薬剤業務による疑義照会件数と優良事例件数の増加、日本病院薬剤師会雑誌、50巻1号p71-74(2014)</p> <p>3) 加藤隆、中込哲、南郷栄秀、名郷直樹、院外処方せんの疑義照会に対する評価、日本病院薬剤師会雑誌47巻9号p1194-1198(2011)</p>			
審査結果	承認 ( 平成29年8月1日 )		